

偶成ぐうせい
(木戸孝允きどたかよし)

才子特才愚守愚 少年才子不如愚
請看他日業成後 才乙不才愚不愚

才子さいしは 才さいを 恃たのみ 愚ぐは 愚ぐを 守まもる

解説) 愀の中のことを考えながら、たまたま作ったといった感じの詩。おそらく周囲の人間の实例を見ての感慨であろう。いつ作られたかは不明。才は恃むに足らず、努力こそ成功の本との意を述べたもので、前詩「勸学」に通ずるものがある。

少年しょうねんの 才子さいしは 愚ぐなるに 如しかず

*才子：頭がよく、頭の働きのすばやい人。*恃才・・・才気をたのみにして自信をもつ。*守愚・・・おろかなことを口覚して、そのやり方で努力を続ける。*少年：若者、七日少年。*他日：後日。将来。

請こう 看みよ 他日たじつ 業ぎょう 成なるの 後のち

「懾」駅) 才子はその才気に自信を持って努力しないが、愚かなものは自分の愚かさ滂却って、それなりに努力を加える。青少年のころは才了であるよりは、愚鈍であるほうがよいのである。その証に、将来成功した髓には、以前才乙にEであったものは、だんだん才気が失せて愚物となり、愚鈍と思われた人物が実は愚鈍ではなく、りっぱに立身出世している。これを見ればかかるであろう。

才子さいしは 才さいならず 愚ぐは 愚ぐならず